

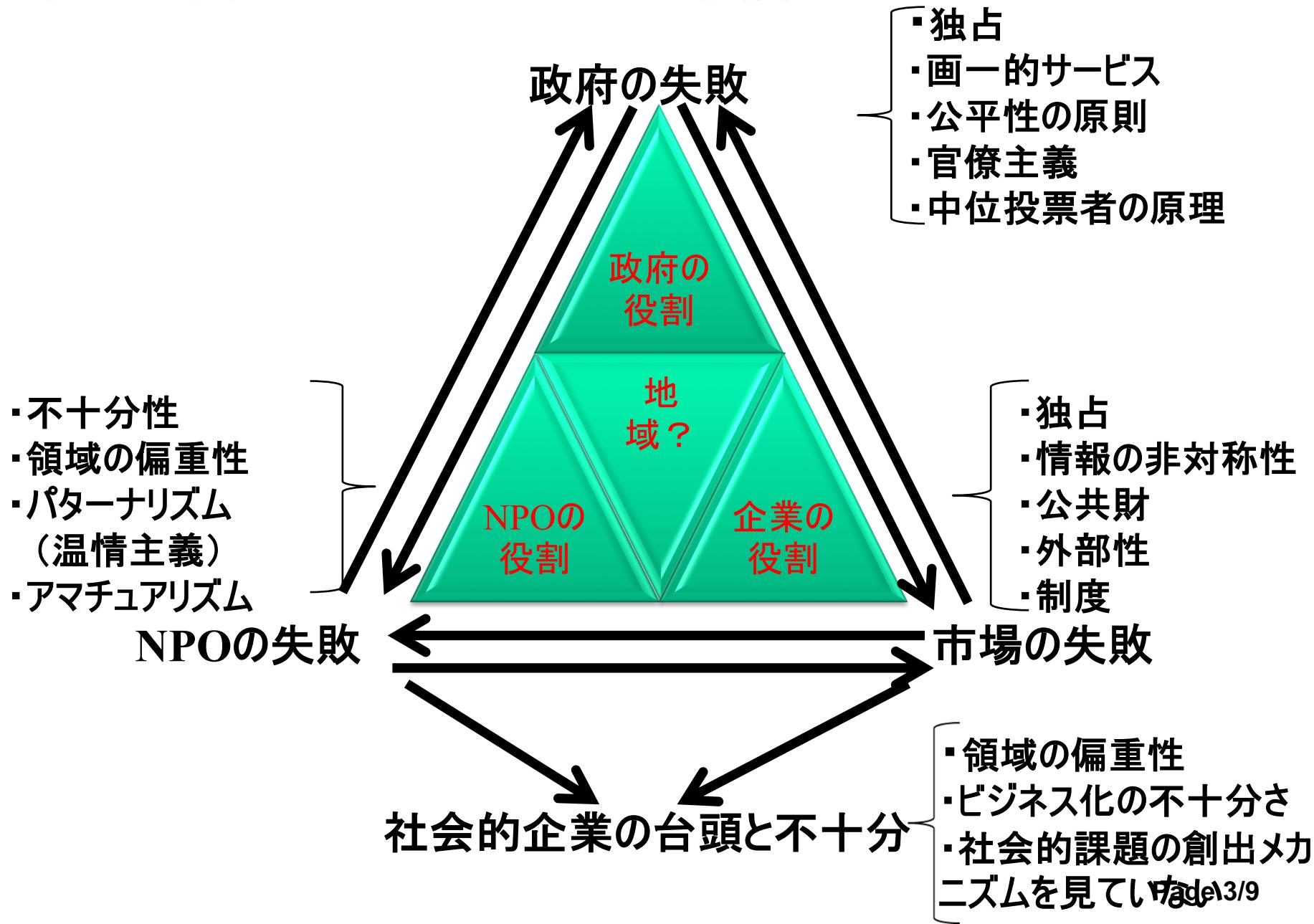
# ソーシャルビジネス (2)

2019/9/27

# スケジュール

1. ガイダンス(9/25)
2. ソーシャルビジネスが台頭する社会的背景 I (9/27)
3. ソーシャルビジネスが台頭する社会的背景 II (10/2)
4. ソーシャルビジネスとは(10/4)
5. ソーシャル・ビジネスの特徴とメカニズム(10/9)
6. 休講(10/11) **課題レポート**
7. 組織形態と組織ポートフォリオ戦略(10/16)
8. ソーシャル・イノベーションとSIクラスター(10/18)
9. 社会指向型企業の台頭と特徴(10/23)
10. サステイナブルカンパニーの台頭(10/30)
11. サステイナブルカンパニーと地域の関係(11/1)
12. 講演会振替(11/8)
13. ソーシャル・ビジネスのモデル化のポイント(11/13)
14. (11/15) **小レポート**

# 社会の閉塞感:3つのセクターの限界

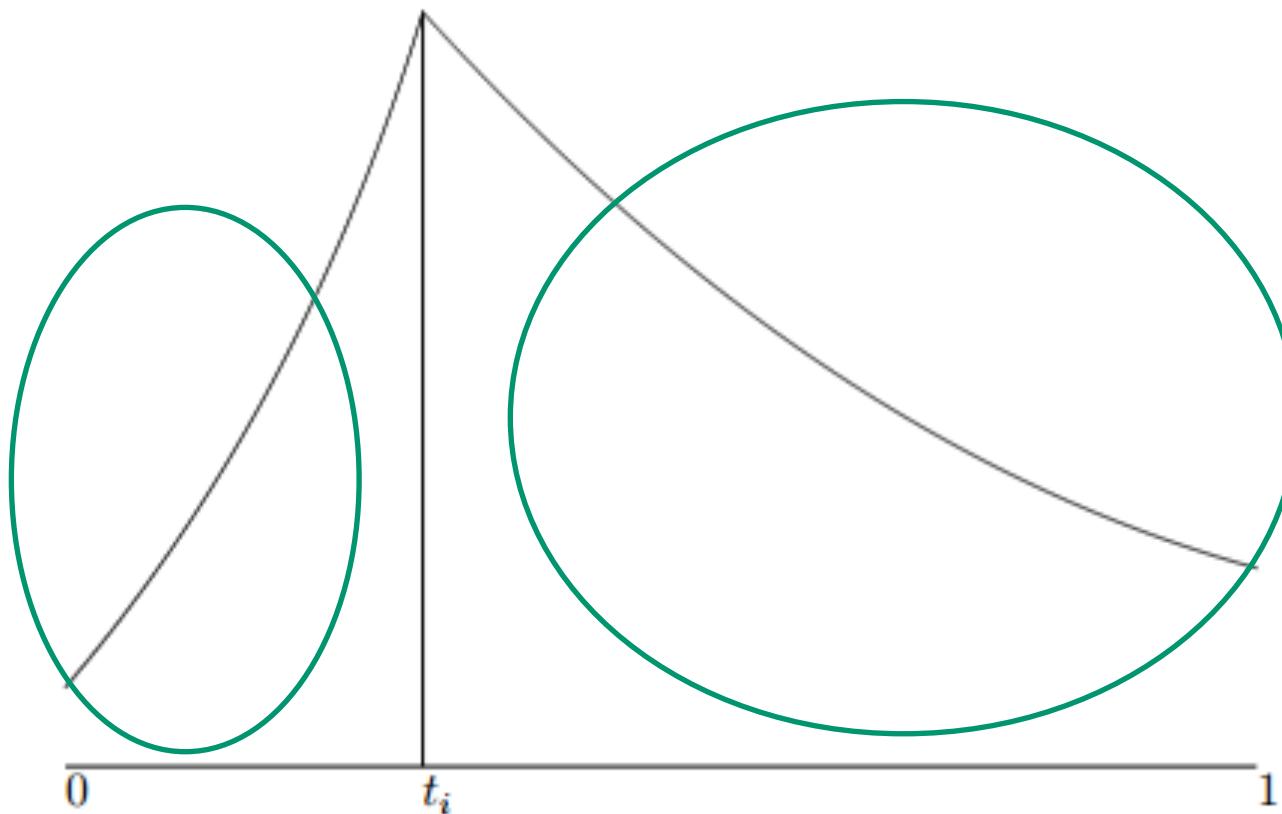


# 1－1－2行政の経営スタイルの変化

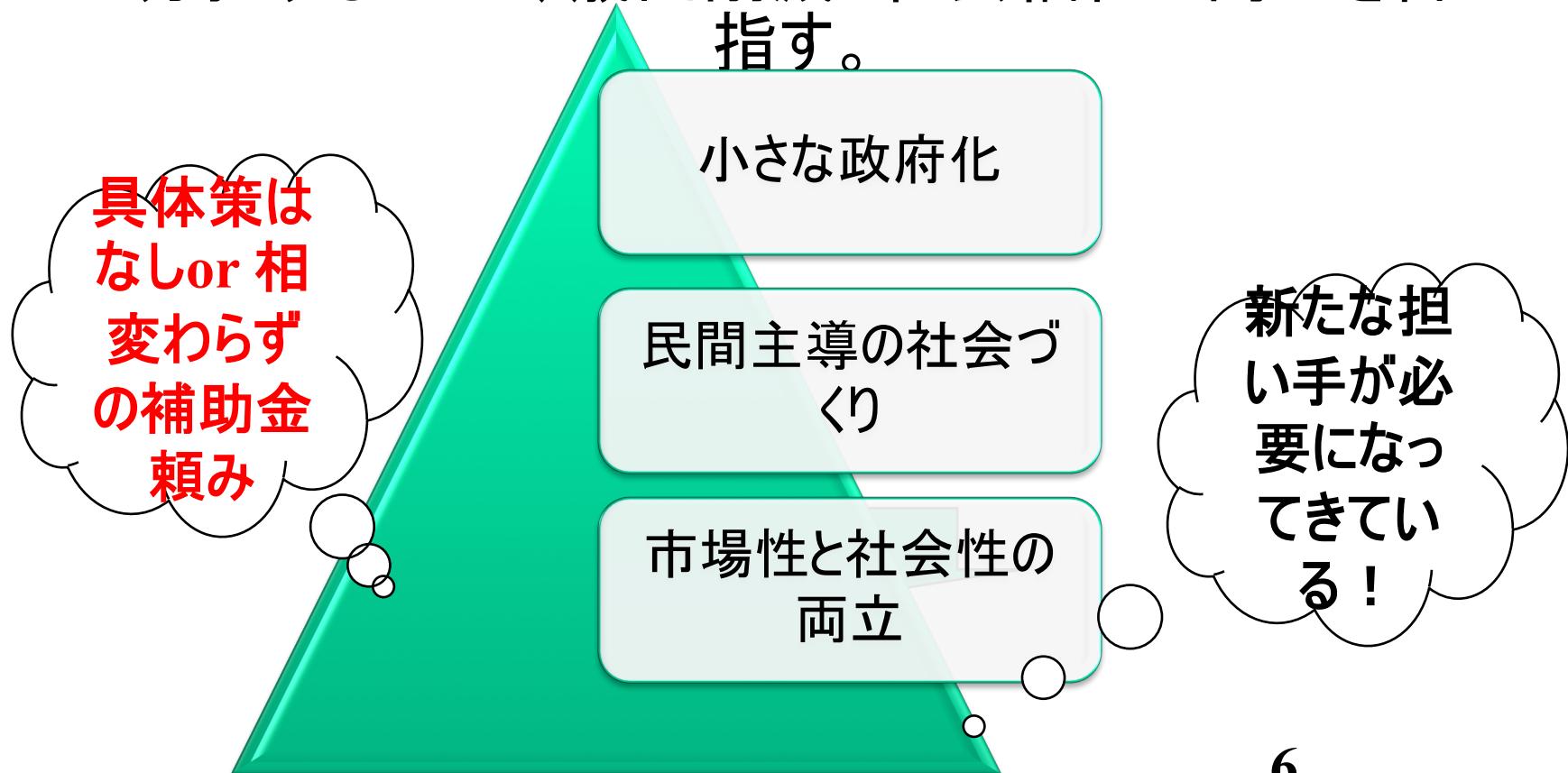
	基礎理論	統制手段	組織運営	市場との関係	社会システム	主たる政策
行政管理 1960～	官僚制	法令規則	官治主義	例外的な活用	政治	交付金/補助金
NPM 1980～	経済学 経営学	業績評価	顧客主義 (中心は行政。市場を利用)	契約システム の広範囲の適用	政治	交付金/補助金
NPG 2000～	経済学 経営学	業績評価 監視	顧客主義 (中心は行政。市民参加)	積極的な活用	市場	交付金/補助金

# 中位投票者の定理

多くの不満足者を生むシステム



新しい公共とは、「公共」を国や自治体のみが担うのではなく、民間のボランティアやNPO、民間企業が分担することで、歳出削減と社会福祉の両立を目指す。



# 行政の経営課題

コントロール行政

縦割り主義

少数のニーズに対応できない

人口減少と税収の減少

独占ではニーズの多様化に対応できない

地域資源の活用というボトムアップ型地域活性化策  
の限界→自己組織性が考慮されていない静的な  
活用に終始。

補助金と制度化以外の施策がない。

目的-手段図式から脱却できない

## ディスカッション1

政府の失敗について

感想

疑問点を議論してみましょう

# 市場の失敗

情報の非対称性

企業と消費者の情報の非対称性

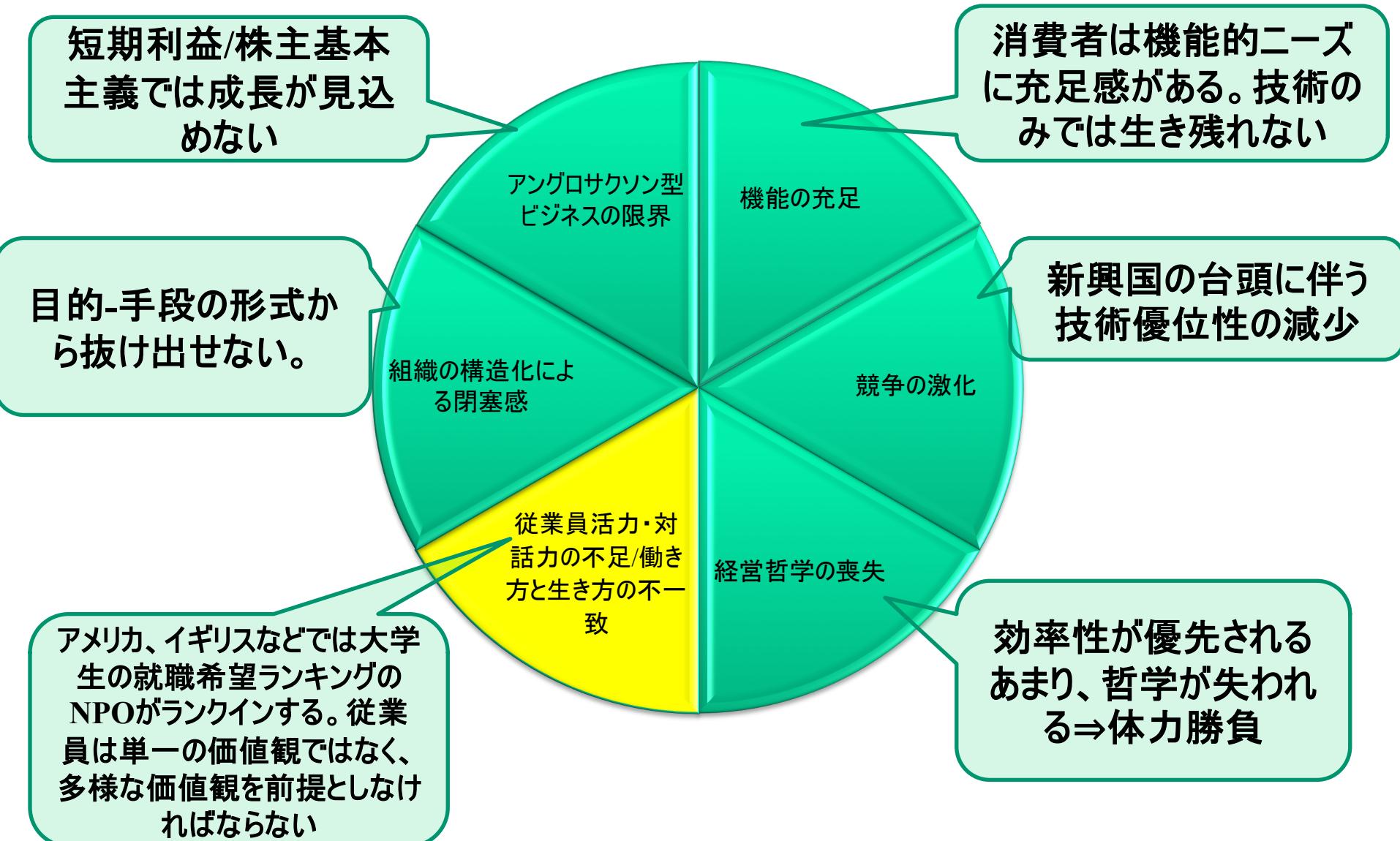
公共財

非競合性・非排除性

外部性

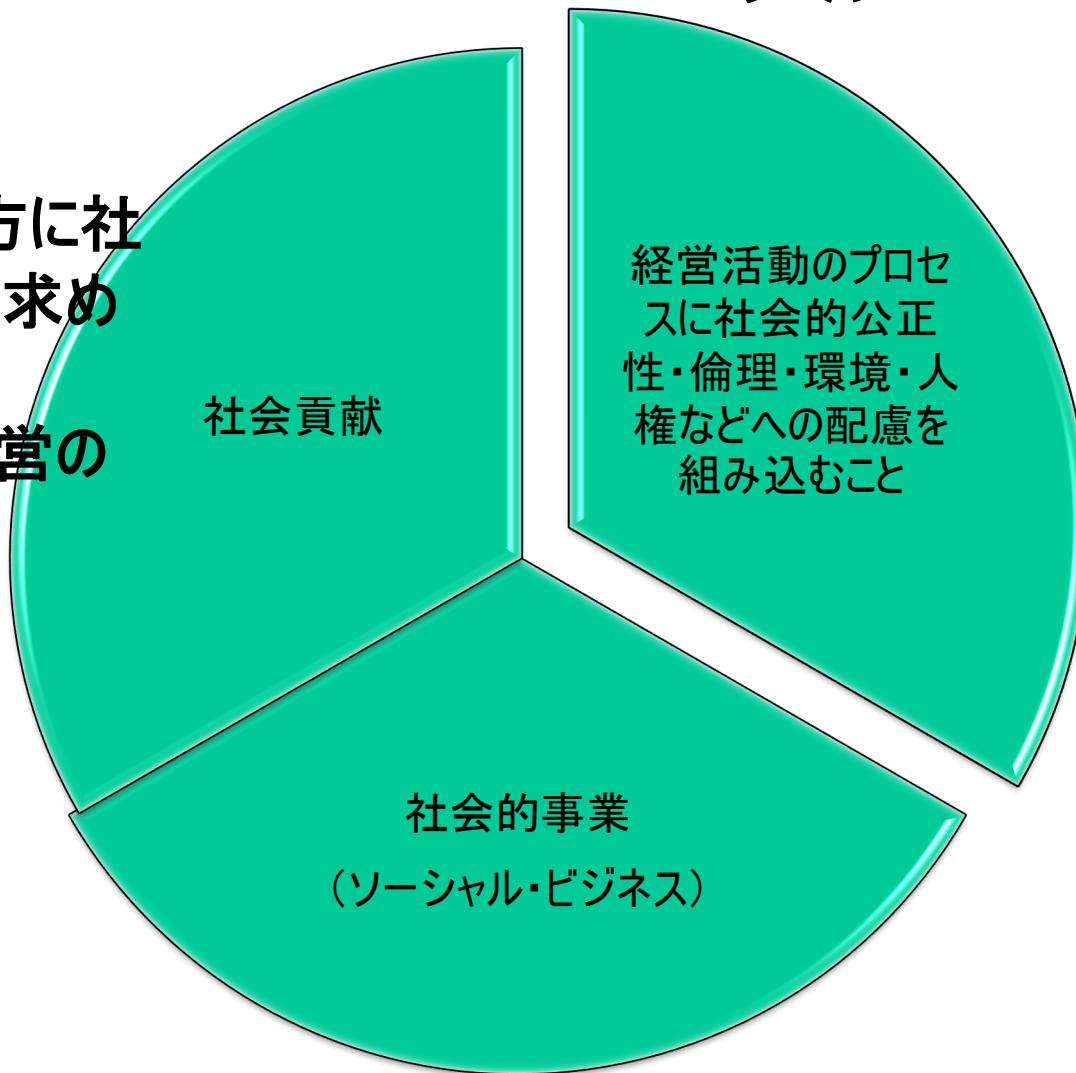
プラスとマイナス

# 1-1-3企業のおかれている状況



# CSRの3つの次元

経営のあり方に社会的責任が求められている。  
一方では経営のあり方とは？



	経営活動のプロセスに社会的公正性・倫理性・環境への配慮の組み込み
①	社会的に責任ある企業経営： 株主、顧客、従業員、環境、コミュニティに対して
②	社会的商品・サービス・社会的事業の開発 環境配慮型商品の開発、障害者・高齢者支援の商品・サービスの開発、エコソア、パリアフリーツアー、フェアトレード、地域再開発にかかる事業、SRIファンド、etc...
③	企業の経営資源を活用したコミュニティへの支援活動 1) 金銭的寄付による社会貢献活動： NPO・財団への寄付、企業財団の設立、マッチング・ギフトなど 2) 施設・人材などを活用した非金銭的な社会貢献活動： 従業員・役員のボランティア活動支援など 3) 本来業務・技術などを活用した社会貢献活動： 本業を通じた支援、cause-related-marketingなど

# 企業の経営課題

過度の効率性

目的-手段図式に落ちている

経営哲学や存在理由をもたない

特定のステイクホルダーに偏っている

バランス論や2項対立が支配している

社会的課題を解決するような組織構造を持っていない

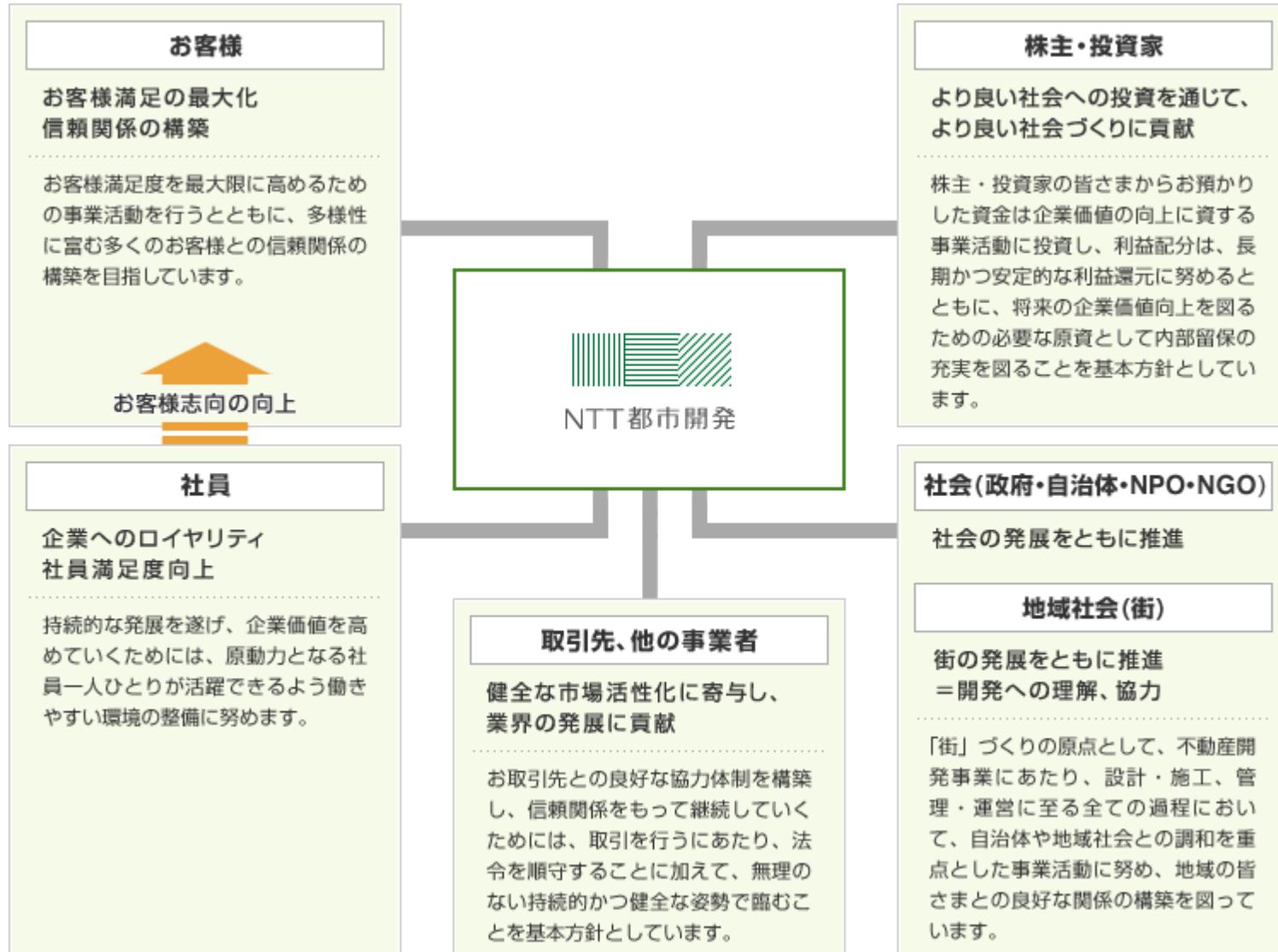
イノベーションが生めない

# 日本の会社観を育んだ土壤とは

1. 大きな契機は1964年のOECD加盟  
自由化することの恐怖感
2. 相互持合いグループの成立  
芙蓉、第1勧業銀行、三和銀行、新日鉄、日立、トヨタ
3. 持合の特徴
  - ・1社あたりの保有率を少なく
  - ・株主に配慮した経営をすることがなかった



# 日本企業とステイクホルダー



# 日本的企业社会の構図

## 1. ステークホルダーの内部化

1980年代まで株主、従業員、サプライヤーなどは企業の内部システム化していた

## 2. コアメンバーと周縁メンバー

- ・コア⇒株主持合会社・男性・一次下請
- ・周縁⇒個人株主、女性、障害者、2次・3次下請け企業

## 4. 労働組合

労働組合さえも内部化されてきた

# とまらぬ企業犯罪、不祥事

1. 日本社会においてはステイクホルダーが企業に取り込まれるように推移してきた。  
コア→労働組合、従業員（長期雇用）、株主持合、一次下請けなど。  
周縁→個人株主、女性・障害者などの従業員など。  
系列システム→サプライヤーを系列化し、内部化してきた
2. 内部から社長を輩出することやステイクホルダーの内部化が、監視・批判する機構を構築できないままにあった。



企業組織の風土・体質、社会に対するアカウンタビリティの欠如

# 不祥事と「企業行動憲章」

1. 経済団体連合会(1991年)  
「企業の社会的役割を果たす7原則」
2. 1996年に企業行動憲章の改定  
副題に社会の信頼と共感を得るために



行動憲章を変えても何も変わらなかつた

# 企業犯罪が消えぬ根底

## 1. 過度の利益追求

問題は利益の量的多寡ではなく、資本主義市場システムを前提とした社会経済システムにおいて、企業のあり方が問われている、ということである。

## 2. 経営者や社員の倫理観の欠如

個人の倫理観やコンプライアンスに対する意識の低さが原因とされるが、その多くは組織の問題と捉える必要がある。



経団連等はこれらを倫理綱領等で防ごうしてきた

## ディスカッション2

市場の失敗について

感想

疑問点を議論してみましょう

# ディスカッション3

政府の失敗と市場の失敗は  
どのようにソーシャルビジネスと関係しているのだろう  
か？